

大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第8回）

議事概要

- 日 時：令和8年1月8日（木）11:00～12:40
- 場 所：上川町役場 大会議室（オンライン併用）
- 出席者：出席者名簿参照（会場出席11団体、Web会議室12団体）

■概 要

1. 開会

大雪山国立公園管理事務所・岡島所長より挨拶

2. 議事

(1) 山岳トイレ等に関する検討課題の整理について

事務局・菅野より、資料1、資料1別紙について説明。

また、今回で検討課題の整理が大方完了することをもって当部会の定例開催は休止し、今後は登山道維持管理部会において山岳トイレの課題に係る進捗管理や議論を行うこととしたい方針を提案。

<質疑>

●山のトイレを考える会 小枝代長

第7回までの部会で、山岳トイレの重点課題や優先課題を検討し、対応を議論してきたが、今回の資料にこれまでの議論の結果が示されているのかよく分からなかった。具体的には、白雲岳避難小屋や黒岳石室のトイレについて、残念ながら具体的な対応の結論は出なかったが、方向性は出ていた。また、裏旭野営指定地に携帯トイレブースを設置するという点について、環境省が3年間の効果検証業務を実施し、第6回部会で結果を報告した。これらの結果が何も記載されていない。事務局としては、裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置について、報告書での評価に基づいてどのような方針を考えているのかお聞きしたい。先程の事務局の説明で、借地の問題は解決できそうだということを口頭で言われたが、そういうことはきちんと書面上で提示されるべきだし、具体的にどうするかは詳細な説明があるべきだと思う。維持管理が課題とのことだが、方法・頻度・費用等は報告書で詳細が出ており、後は発注をどうするかの問題であってそれが課題で今後進まないというのはおかしいのではないかと。

●事務局 菅野

裏旭については、資料1別紙「野営指定地・避難小屋等の管理状況」で現況の課題と今後の方針・目標について記載しているが、借地の課題については明記しておらず、部会後の資料修正の中でお示ししたい。裏旭の現況の課題に「維持管理体制の構築が課題」と記載しているが、環境省が携帯トイレブースを設置する場合、借地して設置するところまでは可能と考えている。一方、維持管理は美瑛富士携帯トイレブースのような体制が構築されることが前提だと考えている。

また、資料1全体でこれまでの議論の結果のニュアンスと異なる点があれば申し訳ない。個別に修正点があればご指摘いただきたい。

●山のトイレを考える会 小枝代表

資料1別紙「山岳トイレ等設置状況」の裏旭野営指定地の課題の欄に、裾合分岐や中岳温泉等と同

様に「旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要」と書かれているが、この「必要性」については既に効果検証業務の報告書で裏旭には必要という結論になったことが第6回部会で報告され、出席者からも異論はなかった。裏旭は旭岳周辺における他の場所とは違い、明確に必要性が確認されたと認識しているので、この前半の部分が違っていると考える。

また、同じ欄に「野営指定地のあり方も含めた整理が必要」と記載があるが、裏旭野営指定地の検討の必要性について、構成員から個人的な話をされたことはあったが、これまでの部会で正式な議題に挙がったことはない。現に、裏旭は大連協 HP 等で野営指定地として公表され、利用されている。それを検討できる権限が当部会にあるとも思えないし、なおかつ構成員から意見があった時には必ず反対の意見が出ていて、検討方法も具体的になっておらず、実際には野営指定地のあり方については、資料1別紙に反映する内容には該当しないと考える。

資料1別紙「野営指定地・避難小屋等の管理状況」の裏旭野営指定地の現況の課題の記載についても同様で、「野営指定地としての存続の可否を要考慮」というような議論には至っていないはずである。借地が可能となったなら、今後は携帯トイレブースの設置が方針・目標になるのではないのか。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

裏旭野営指定地のあり方も含めた整理が必要という点について、私も含めて以前から意見を述べており、私としては議論しているつもりである。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

この部会で出された意見は正式なものではないのか。今回の議事資料には以前から色々な方が言われた意見が大体網羅されていると思う。野営指定地のあり方についても、決議をはっきり取るような進め方ではなかったが、そういう課題があり検討が必要だという話があった。実際に施設を建てる際には十分に検討の上でというのはありだと思う。もちろん、野営指定地そのものを検討していたら何年も始まらないのではとも思うが、部会で言った意見が議事資料に記載されていることは何も悪いことではないのでは。

●山のトイレを考える会 小枝代表

構成員が意見を言うことは自由で、問題を提起することも何の差し支えもないが、それに対しての反論や多様な意見もある。問題について部会で協議をするなら、事務局が議事や報告に上げて協議がなされるはずで、そうでなければ各構成員の意見だと思う。

また、大雪山の野営指定地の改廃について協議する権限を我々が持っているのか明確にされていない。事務局が、裏旭野営指定地を廃止する具体的な手順や協議の仕方を当部会で提示するなら、構成員はそれに対して意見を言うことになるが、そういう形を経ることなく、意見が出ただけで方向性をまとめる資料に入れ込むのは、やはりおかしいのではないか。本来は大連協の本会議にそういう権限があって協議するようなことではないのか。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

野営指定地そのものの仕組み自体も、国立公園の制度上は特殊で、これを設けている国立公園は多くない。通常は国立公園ではきちんと野営場を設けて管理しているが、野営指定地という制度は、野営場を設けることができない大雪や日高のような山岳地で指定して、できるだけそこで野営してくださいというもの。そこに管理者はいないし、施設も基本的には置かない。ただ、特にその必要性が求められた場所や、石室や避難小屋に併設されている場所は、その管理者が多少の管理はできるという状態。南沼は地元の新得山岳会の努力もあって携帯トイレブースを置いて管理できているが、他の場所でも恒常的な管理ができるかというとなかなかその保証もなく、これから野営指定地

をどうしていくのかは一つの課題。今、北海道大学で国立公園の管理について研究している者として発言しているが、それでも公的な発言にはならないのか。

●山のトイレを考える会 小枝代表

愛甲先生としてお考えを述べておられるのは分かっており、野営指定地は大雪山全体の問題だということも承知している。ただ、当部会でこれを正式な議題に上げて協議したこともなく、部会の目的にもないことは明確にしておくべきである。その上で協議していくということならば、やらなければならないと思う。

また、事務局が課題だとしている維持管理について、美瑛富士では三者協定を結んで利用者もそこに加わって維持管理しているが、それは非常に稀なこと。他の場所では、ニペソツや他の携帯トイレブースを設置している場所でも、管理者が業務発注して実施している。裏旭についても環境省の報告書では、具体的な維持管理体制にまでは踏み込んでいないが、維持管理に必要な内容を提示している。維持管理について発注できるだけの内容も分かっており、後は環境省が発注するだけで、今後協議することは何も無いのではないか。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

裏旭の維持管理について、環境省で予算を取って点検等を発注することは今の時点で考えられるか。

●事務局 菅野

今の時点では、環境省としては、借地の手続きをして、シーズン中の仮設ブースの設置・撤去を職員実行で行うところまではできるが、全国的に維持管理費が厳しい状況の中、新たに維持管理の予算を取って発注することは難しいと考えている。そのような中で、先行事例・モデルケースとして美瑛富士を挙げた。その方法が全てだとは思わないが、現状そのような課題がある。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

小枝代表の意見については、例えば資料1の1. 山岳トイレ等の利用環境づくりの当面の目標または中期目標に追記してはどうか。例えば、ドローンでの運搬試験や白雲・忠別での取組については3～5年程度の予定として書いてあるが、同様に今問題提起のあった裏旭についても、予算の確保を含めて課題があるものの環境省の報告書で設置の必要性が確認されたことを書いた上で、維持管理体制の検討を継続する、としておくことで、議論した内容が反映されるのでは。

●山のトイレを考える会 小枝代表

その形で問題ない。ただ、設置前に維持管理体制を確立しなければならないということは大雪山の過去の事例でも一つもなかった。さらに、利用者とともに維持管理している携帯トイレブースは唯一美瑛富士だが、それは非常に稀だということは認識していただきたい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

それは継続した課題として書いておくことが重要。今の議論の内容に従って、適宜資料の修正をされたい。

●十勝自然保護協会 植田理事

資料1別紙「登山口別携帯トイレ持参率」の登山者数について、森林管理署から提供された数値とのことだが、資料1別紙「登山口別のトイレ関係施設等状況」の入山者数とかなり異なっているのはなぜか。

●事務局 友野

前者の資料は、入林簿の記録数として森林管理署から提供いただいたもの。後者の入山者数は、環境省で設置した登山者カウンターの計測数や施設の利用者数、森林管理署から提供いただく入林

簿の記録数に補正を加えた推計値のため、同じ地点でも数字が異なる。

●事務局 上村

後者の集計期間は6月から10月までだが、南ペトル等の然別湖周辺の山は4月から11月まで登山者があり、入林簿にはその間の数字も入るため、集計した期間も異なる。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

それぞれの場所の登山者数が何のデータに基づいて推計されているかは、資料上もはっきりさせておいた方がいい。

●十勝自然保護協会 植田理事

それで良いが、これだけ数字に乖離があるのに、なぜそのままだったのかが疑問。果たしてきちんとした資料を出しているのかどうか疑問に思ってしまう。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

モニタリングのデータは根拠を示しておく必要があるので、森林管理署には各入林簿の設置期間を合わせて教えていただければ非常に助かる。入林簿で携帯トイレの持参の有無を確認しているのは大雪山の一つの特徴で、ずっと続けていただけて非常に貴重なデータになっているため、その意味でも設置期間をはっきりさせておき、資料に追加すると良い。環境省の登山者数データが何に基づいて推定されているかも、補足で整理していただければ。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

先ほどの裏旭について発展的に考えていただきたい。裏旭に限らず、トイレを建てるのはお金があればできるが、大事なのはその後の維持管理の手段や資金。維持管理できなかつたらどんどん酷い施設になるのは今ある状態でもよく分かっているので、そこを解決してから建てるべきということもよく分かる。行政が維持管理にこれ以上お金を出しにくい現状は、登山道整備でもそうなので、やはりお金を集める手段を考えなければならない。ボランティアに手伝ってもらう形で維持管理費を減らすのも案としてはありだが、継続して維持管理できるように資金を捻出できる形を作らないと、新たにトイレを建てていこうとはならないのでは。どうやってお金を取っていくべきか、どういう人に払ってもらうべきかを一緒に考え、協力金の活用方法の議論も必要。白雲岳避難小屋で少し余分に値上げして、それを別の場所に使う方法もあり得るかもしれない。そういう議論をしないと、ここから先には進めないのではないかと。課題として取り上げていただきたい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

今の話も併せて資料に記載していただければ。

●山のトイレを考える会 小枝代表

資金の収集手段等を当部会で具体的に決めることはできないのではないかと。協議会の本会でどう議論するか筋道をつけて実施するべきではないかと考える。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

協力金については、以前部会を作って議論し方針を作っているのだから、それに基づいて議論されることになると思う。その場をどう設けるかは今後の議論が必要。

●山岳レクリエーション管理研究会 山口事務局長

登山道補修技術検討会でも言ったが、適切な利用人数、特にトイレは容量が決まっている。この先利用者数が増えたらそれに容量を合わせるのか、あるべき利用人数を決めて制限するという方針なのか、来るもの拒まずという時代ではないと思うがどうか。

●事務局 岡島

非常に重要なことだが、まだその議論に入れていないと認識している。登山道でも、全体計画を

どう作っていくのか、事務局内でも議論しなければならない。その過程で、トイレのあり方も含めて今後議論をさせていただくことになると思う。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

コロナ禍を経て山小屋も予約するのが当然になってきて、富士山でも登山者数の規制と利用料金の値上げが始まり、効果検証も行われている。今日は登山者数や野营地定地の位置付けの議論もあった。協力金や財源の話もあったが、小枝代表が言われたように、当部会だけでは議論できないようなことが増えてきた。トイレに関しては配置基準や課題の整理は進んだので、これを一旦の区切りとして、今後は登山道部会の方で継続して進捗管理しながら、登山道のあり方や登山者の受け入れのあり方の中で継続して議論させていただければと思うがよろしいか。(特に異議なし)では当部会はここで一区切りとする。

3. 報告事項

(1) 携帯トイレ普及宣言推進事業について

事務局・菅野、高橋より、資料2-1、2-2、2-3について説明

(2) 汚泥等運搬手法の検討

大雪山国立公園管理事務所・友野上席国立公園管理官より、資料3について説明

(3) トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和7年度の取組みについて

十勝総合振興局・滝下係長、上士幌管理官事務所・永田国立公園管理官より、資料4について説明
<質疑>

●山樂舎 BEAR/層雲峡ビジターセンター 佐久間代表/インタープリター

黒岳の携帯トイレキャンペーンの時、三連休で登山者が集中したところに携帯トイレの利用者がかなり増えて、ビジターセンターの回収ボックスに入りきらない状態になった。層雲峡ビジターセンターでは携帯トイレを一般の可燃ゴミとして出しており、月曜日が祝日で収集されなかったため、回収ボックスに入りきらない多くの携帯トイレを屋内で三日間保管した。三日間屋内に置いておくと臭いが凄いことになる。キャンペーンを行う時は日程を考えてほしい。また、常設トイレのある場所で携帯トイレを使いましょうというのも矛盾しているし、携帯トイレは本質的な解決方法ではないので、方向性としては常設トイレを回していくことを考えた方がよいのではないかと。

●山岳レクリエーション管理研究会 山口事務局長

ドローンによる物資運搬は、スノーモビルとともに今後非常に期待できるものだと認識している。北アルプスの方でもドローンの試験を行ったという話を前に伺ったが、国立公園や環境省全体としてドローンの利用について何か議論されているのかどうかお聞きしたい。

●事務局 岡島

知る限りでは全体で議論をしていることはない。ただ、北アルプスも含めて国立公園の各事務所に関心があるのは間違いなく、それぞれ検討し始めているとは聞いている。それぞれの状況や取組を共有しつつ全体の議論に繋がられるかは、今後次第と思っている。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

携帯トイレの方針に関して改めて再検討をお願いします。佐久間代表が仰ったように、常設トイレの方が皆使ってくれて、人が来る。これから登山者からお金をいただいて、協力金を増やさなければいけない部分もある一方、地元としても登山者に来てほしい。その時に「携帯トイレでないとダメ」と言うのと、「常設トイレ整備しています」と言うのでは、初心者に関しては完全に後の方が来やすいし、お金を払ってくれる。携帯トイレは一見山が綺麗になる素晴らしいことかもしれない

が、消極的な管理であり、できれば積極的な管理に踏み込んでほしい。そのために、スノーモバイルやドローンでの運搬技術を確立して、できるだけ安く抑えていきたいと思う。携帯トイレも、上川町だから焼却できるのだと思うが、自治体によっては埋め立てするところも多いと聞いている。山のゴミを下に持って行って埋め立てるのは本当にいいのかという思いもある。この十年で携帯トイレの良いところははっきり見えてきたし、私もある場所にはあった方がいいと思うが、このまま方針として続けていくかどうかは再検討をお願いしたい。

●十勝自然保護協会 植田理事

当協会理事会からの質問事項も含めてまとめて発言する。新しく国立公園になった日高山脈の麓の中札内村では、昨年4月から国立公園の管理・案内に特化した地域おこし協力隊員を採用して、日高山脈の入口のピョウタンの滝の山岳センターに常駐している。大雪山でも国立公園に特化した地域おこし協力隊を採用しているところがあるのか、そういうことができないのかお聞きしたい。また、色々なことに費用がかかるということで、例えばふるさと納税の使途に、こういう問題も含めた山岳管理に使ってほしいという項目を作れば、だいぶ集まるのではないか。もう一つはクラウドファンディングで、色々な問題もあるが、結構集まるので方法として考えられるのではないか。また、個人的な質問としては、入山者数のうち外国人の人数を把握していないのか、また増減は具体的に分かっているものか。最後に細かなことだがいつも気になっていることとして、資料中で元号と西暦が混ざっている。多くの一般人は西暦で考えると思うが、元号だけの記載だと西暦に変換しないとならず、せめて併記にしていきたい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

登山者カウンターでは外国人か日本人かを分けて数えることはできないが、入林簿についてはどうか。

●上川中部森林管理署 秋元地域統括森林官

現状の様式で外国人か日本人かを記入する欄は設けていない。様式にそういった項目を一つ入れることはできるかも知れない。また、道内か道外かの把握も欄を設ければできるが、この場では決められず、署として検討することは可能。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

名前から判別する方法もあるが、それも手間がかかる。白雲岳の宿泊者では、外国人はどれくらいいるか。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

国籍、テント泊、小屋泊の数を把握しているので、後で共有する。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

段々とそういう情報も必要になってくるというご指摘だと思うので、皆さんでその点も協力していただければ。地域おこし協力隊やふるさと納税については、市町からは会場には上川町しかいらっしやらないが、コメントはあるか。

●上川町役場 合佐昆主事

地域おこし協力隊は部署が違うので十分把握していないが、山専門の地域おこし協力隊は現状ではない。但し、地域おこし協力隊でアウトドア・プロデューサーという肩書の方が、夏はキャンプ場、冬は層雲峡ビジターセンターを手伝っている。ふるさと納税も部署が違うが、恐らく登山道整備やトイレに充てるという話は出ていないので、そういった話が出たことを共有させていただきたい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

ふるさと納税で集めているケースも全国的にはあるので、ウェブで参加されている各市町含め、ぜひご検討いただきたい。

また、携帯トイレの話もドローンの運搬の話もそうだったが、下に降ろしてからの処理も含めて考えなければならない。特にスノーモビルやドローンで降ろした後、その後処理場に持って行くことも含めた上での費用の試算、手間の検討が必要。使用済み携帯トイレをどう処理するかは佐久間代表が仰った通り大変な問題なので、それも含めた上での体制構築が必要と話を聞いて痛感したところ。

4. その他
特になし

5. 閉会

以上